

# S.G. Report

平成30年度

## オーストラリア現地環境スタディー

- ・日 時：平成30年8月1日（水）～8日（水）
- ・参加者：2年SG コース生徒（15名）、職員2名（前田副校長、森田）
- ・訪問先：パース（オーストラリア）
- ・目 的：(1) 環境学習から得た知識や情報を利用し、それぞれの課題研究の更なる深化を図る。  
 (2) 環境保護に力を入れているオーストラリアで、環境関連施設の視察、高校・大学訪問・交流等を行う。  
 (3) 事前の準備や事後の振り返り等とおして、自国の文化等について見つめ直し、英語発信力を向上させる。

月日（曜日）	時刻	行程
8月1日（水） 【パース泊】	6:00 10:00 15:25 18:45 23:55	貸切バスにて福岡空港へ シンガポール空港へ向け出発 シンガポール空港乗継 パース空港へ向け出発 パース国際空港着後 貸切バス移動、市内ホテルへ
8月2日（木） 【ホームステイ】	午 前  午 後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル出発、キングスパークへ</li> <li>・パース市内を一望</li> <li>・カーティン大学へ移動</li> </ul> 昼食 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・キャンパスツアー （カーティン大学生と共に5名1組に分かれ、課題をこなしながら、カーティン大学について学ぶ。大学生に興味のある場所を伝え、一緒に回る。将来について、海外の大学で学ぶということについて等話をする。）</li> <li>・発表（キャンパスツアーで学んだことを発表）</li> <li>・ホームステイについてのオリエンテーション</li> </ul> その後、ホストファミリーと対面、各ファミリーへ



8月3日（金） 【ホームステイ】	午 前  午 後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホストファミリーによる送迎</li> <li>・カーティン大学にてパースについての理解</li> <li>・英語レッスン、モーニングブレイク</li> <li>・昼食後、パース市内研修 （パースが世界で最も住みやすい街として選ばれている理由や、様々な建物が新たに建てられようとしている事について、景観や環境保護の視点から学ぶ。）</li> </ul> 各ファミリー宅へ	
8月4日（土） 【ホームステイ】	終 日	・ホストファミリーと終日活動	
8月5日（日） 【ホームステイ】	午 前  午 後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホストファミリーによる送迎</li> <li>・再生可能エネルギーについての理解</li> <li>・ロットネスト島にて環境保護を学ぶ</li> </ul> 各ファミリー宅へ	
8月6日（月） 【ホームステイ】	午 前  午 後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホストファミリーによる送迎</li> <li>・現地校高校訪問</li> <li>・カルチャーセッション （日本語を第二言語として設けている現地校を訪れ、ごみ問題や環境問題等、日本と共通している点や異なる点を話し合う）</li> </ul>	
8月7日（火） 【機内泊】	午 前  午 後	ホストファミリーによる送迎 教師からのフィードバックとプレゼン準備 フェアウェルパーティー、 プレゼンテーション発表 英語教師、大学生とのお別れ 現地校出発 空路 シンガポールへ シンガポール乗り継ぎ	
8月8日（水）	01:20 08:35 11:30	福岡空港へ向け出発 福岡空港到着 解散	

## 【生徒感想】(おおむね原文のまま)

### ○研修中の気づき

- 時間にルーズなのはダメだと思った。外国人はルーズな印象があったがそんなことはない。
- とにかく先を考えて、逆算して行動する。単語力不足。
- 今まで絶対日本が住みやすいと思っていたけれど知らない事がたくさんあった。
- オーストラリアは誰に対してもフレンドリー。
- 夕食後の家族の時間を大切にする。
- 街のあちこちにゴミ箱がある。
- 単語がわからない時は別の語を使えばOK。
- オーストラリア人はよく寝る。自分はまだまだ子ども。
- オーストラリアでは「エ」の発音を「ア」で発音する (day→ダイ、great→グライト)。



### ○大学の研修で学んだこと

- 積極的なコミュニケーション こういう場面ではこんな風に言えばよいなど。
- 進んでリサイクルをしようという取り組み。
- 世界にはたくさんの文化があること。
- 自然な英語とはどんなものか。
- 普通の会話で使える英語のフレーズ、Can I use shower after dinner?
- 役に立つ英文。
- 相手の目を見て話す。

### ○感動したこと

- ロットネスト島でみんなで大声で笑って遊んだ事。
- バイオリンを弾いていたストリートミュージシャンが、自分たちを見て日本の曲(千本桜)を演奏してくれた事。
- ホストファミリーと過ごした時間全部。ホストマザーがプレゼントを用意してくれた事。
- ホストファミリーだけでなく、近所の人や大学生、お店の人とも話せた事。
- 海がきれい、自然がいっぱい、人が話しやすい。
- 意外と日本食がある。
- 自分の英語が通じた事。



### ○大変だったこと、悩んだこと

- ロットネスト島でカメとカラスとクオッカが昼食を盗もうとしたこと。
- 一日だけ「自由な時間に起きていい」と言われたこと。
- 3歳のホストブラザーと話すこと、部屋に暖房がなかったので寒かった。
- ホームステイ期間が短かすぎる。

- 皆9時に寝るので、自分だけ眠れなかったこと。消灯が早すぎる。
- 実際に街に出て店員さんと話すとき聞き取れなかった事。お金の使い分け。
- 単語さえ言えばある程度伝わるかなと思っていたが、実際にはほとんど伝わらなく難しかった。
- 移動が多くて腰が痛い、強風とにわか雨で風邪をひかないようにしなければならなかったこと
- お風呂が寒すぎた、食事が口に合わない事があった。
- 英語を聞き取れない時の対応に悩んだ。



### ○出会い(人、物、風景)

- 二重の虹、別グループでホームステイしていた日本人
- ホストファミリー、教会の友達。
- 緑豊かな都市、グレニス先生、カーティン大学生。
- 矢城さん、クオッカ、きれいな海。
- 信号が縦に並んでいた。
- 犬がいておどろいた。
- 見たこともない木の实、エスケッドという鳥。



### ○日本の良い所、日本について考えたこと

- オーストラリアに比べて労働時間も勉強時間も遥かに長い。
- 約束した時間の何分か前には集合するところ。
- 安いものが多い、街に緑が少ない。
- 毎日風呂に入る習慣がある。
- 食べる前、家族前っていただきますというところ。
- 靴を脱いで家に入る、生徒が掃除をする。チャイムの音がうるさくない。
- オーストラリアには日本車が多く、日本の工業技術は広く世界に求められているのだと知った。
- 日本ではフードコートなどは自分で食べたものは自分で戻すところ。
- 日本はやっぱり自分にとって便利だと思った。
- 日本は国土が狭い、全ての施設、モノ、家がオーストラリアより小さいと思った。
- 日本食はヘルシーでバランスがとれている。
- 昔からの日本人の性格であるおくゆかしさや遠慮がちなところが、かえってコミュニケーションを減らし、ストレスを溜めてしまう気がした。
- 環境を重視し、もっと街をきれいに使わなければならない。リサイクルの徹底をすべき。
- パースのように政府が国民全体を支援できるようなシステムを作れば日本も良くなると思った。

### ○「〇〇〇」って英語でなんていうのかわからず考えたこと

- つる・カモメ
- お好み焼きの説明・グミ・果物の梨
- 納豆の説明・義務教育
- 濃い ・発電・合理的
- いただきます、ごちそうさま、ただいま、おかえり、いってきます、いってらっしゃい

## ○ホームステイ中に見た、体験したおもしろかったこと

- 早く起き、早く眠る生活。夕食後は自分で皿を洗う。
- 靴を履いて家の中に入るのに、お風呂の後は裸足だった。
- 皿の洗い方、自由すぎる動物園（ポップコーンがあげられる）。
- 夕食後の家族団らんの時間、上手な時間の使い方。
- オーストラリアのニュース、朝食は自分で選ぶ。
- 青いケーキ、ホームパーティーの規模が大きい。
- 寝る前は“good night! I love you!” でハグする。
- 夕食は全員が食べ終わるまで着席していなければいけない。



## ○日本から持って行って良かったもの

- 下駄（何度もホームステイを受け入れていたが、初めて買ったそう）
- 干し梅と昆布 ・風鈴、とても喜んでくれた。
- ヒートテック、あたたかいパジャマ
- 折り紙、コアラのマーチ、ごはん
- スリッパ ・除菌シート・ビニール袋、折りたたみ傘



## ○日本から「OO」を持っていけばよかった!

- 済々黌のパンフレット、熊本城のパンフレット
- 長袖の温かい服、防寒着 ・もこもこ靴下
- けん玉 ・はし ・色鉛筆、自由ノート
- カップ、ファブリーズ

## ○これからの人生で生かしていきたいこと

- 英語でのコミュニケーションをより増やし、これからのグローバル化に向けて学習を続けたい。
- 自分の常識が通用しない世界があるのを痛感したので、固定観念にとらわれないようにしたい。
- コミュニケーションの取り方、他人を受け入れること、明るさ、多分化共生社会の仕組み。
- 分からない所があったら、自発的に尋ねる、積極的に話す。コミュニケーションを多くとる。
- 飛びこんでみれば案外どうにかなるので、これからもチャレンジ精神を忘れずに生きたい。
- 世界中の様々な文化への理解と、どんな人にも Hello と言える心の寛大さと良い意味での余裕を持つこと。リスニング力とその場で判断する力。固定観念は捨てること。
- もっと海外に行って、英語を話す環境に積極的に入ることは英語を習得するために大切だ。
- できないからやらないでなく、できないからこそ挑戦するという精神を大切にしたい。
- 初対面の人とのコミュニケーション能力。自らいろんな人に話かけること。
- 国が変わるだけで生活環境や文化等、こんなにも違うものかと感心した。広い視野で世界を常に見ていこうと思う。
- 英語力にもっと磨きをかけたい。何事もチャレンジ!

## ○研修に行く前と行った後で変わったこと

- 日本だけではなく世界で活躍する人になりたいと思うようになった。
- 外国に対する印象が変わった、水もおいしいし、オーストラリアの人達はとても親切だった。
- 前向きに考える事ができるようになった、積極的に発言できるようになった、友情が深まった
- 行く前は、外国では完全な英語を話さなければならないと考えていた、大事なのは「伝えること」なので文法にしばられてはいけない。
- 外国の人と自分は何もかもが違うと思っていたが、同じ人間なのでそれを忘れなければどうにかなるし、そっちのほうが楽しい。
- 外国人に話しかけられるとおどおどして上手くコミュニケーションがとれなかったり、会話が続かなかったけど、ホームステイや English lesson、大学生や高校生との交流を通して、怖がらずに返事したり、自分の意見を伝えながらも相手に質問を投げかけたりすることが、前よりできるとようになった。
- 日本が自分にとって一番住みやすいと思っていたけれど、オーストラリアに行ってみたら日本よりも良い点がたくさんあって、実際に体験してみないと分からないのだと知りました。
- 海外で働いてみたいし、留学したいと思うようになった。
- 圧倒的に世界の色々な場所へ行きたいと思うようになった。世界を見て、知って、体験することをより近く感じるとともに、自分の未来に生かせるような人生にしていきたいと思う。
- 初めからできないと決めつけず、一度は必ず挑戦するようにしたいと思いました。また、もっと人の心を読むような眼を身につけ、誰よりも早く気づいて、気にかけて、人のためになることをしたいと思った。
- 世界は広いと感じた。今まで「世界を見ろ」と言われてもピンとこなかったけど、実際に行ってみてその意味がわかった気がする。ずっと悩んでいたことも、なんだかちっぽけに感じる。
- 家事を手伝うようになった、国内外の問題について家族と話すようになった、英語の勉強に意欲が湧いた。
- 海外では日本と異なる生活を送ることになるだろうと思っていたが、英語をツールにして普通に生活することができるとわかった。
- 外国に行くならやっぱり英語は上手くなければというイメージがあったけれど、ジェスチャーや表情でも自分の思いを伝えることができるとわかった。もっと英語を勉強してパースに、ホストファミリーの所に戻りたい。英語を学び、もっと世界で活躍できる人になりたい。

